## 壺の碑国宝指定記念・多賀城創建千 二百年記念

## 第三十一回



# ・講 演 「声を刻む 俳句の祈り」特別選者 神野 紗希



日本経済新聞、信濃毎日新聞俳壇選者。現代俳句句部、はじめました』(岩波書店)他。 の蜂』(角川書店)『すみれそよぐ』(朔出版)、著書の蜂』(角川書店)『すみれそよぐ』(朔出版)、著書に『日めくり子規・漱石』(愛媛新聞社/第34回愛に『日めくり子規・漱石』(愛媛新聞社/第34回愛媛出版文化賞大賞)『女の俳句』(ふらんす堂)『もう泣かない電気毛布は裏切らない』(文春文庫)『まみれの蜂』(角川書店)『すみれそよぐ』(朔出版)、著書の事に『日本経済新聞、信濃毎日新聞俳壇選者。現代俳句 の蜂』(角川書店)『すみれそよぐ』(朔出版)、著書のり集に『星の地図』(マルコボ.com)『光まみれの蜂』(角川書店)『中国芝不器男俳句新きっかけに俳句をはいる。第一回芝不器男俳句新きっかけに俳句をはいる。第一回芝不器男俳句新きっかけに俳句をはいる。第一回芝不器男俳句新きっかけに明白を表演者により、第一回芝により、

ほそ道』より) 徳、存命の悦び、羈旅の労をわすれて、泪も落るばかり也」(『おくの徳、存命の悦び、羈旅の労をわすれて、泪も落るばかり也」(『おくの一策に至りて疑なき千歳の記念、今眼前に古人の心を閲す。行脚の一

協会常務理事

高野ムツオも選を務めます。 睦、成田一子、髙橋健文の各先生をお迎えする予定です。実行委員長睦、成田一子、髙橋健文の各先生をお迎えします。また、地元選者として、西山選者には、神野紗希先生をお迎えします。また、地元選者として、西山を記念して第三十一回「壺の碑」全国俳句大会を開催いたします。特別この壺の碑への芭蕉の感動に思いを馳せながら、多賀城創建千三百年

たします。 皆様お誘い合わせの上、奮ってご応募ご参加下さいますようご案内い

※内容は多賀城市のホームページと多賀城市観光協会のホームページでもご確認できます。

### 日時

(仙石線多賀城駅から徒歩七分) 会場◆多賀城市文化センター小ホール会場◆多賀城市文化センター小ホール (俳句大会受付開始:午前九時三十分)

協賛◆七ヶ浜町、多賀城·七ヶ浜商工会、 井催◆多賀城市・多賀城市教育委員会 宮城県多賀城市・多賀城市教育委員会 投句先(事務局)

後援◆多賀城市観光協会

芸術銀河協賛事業

後援◆東北歴史博物館、(公社)宮城後援◆東北歴史博物館、(公社)宮城観光キャンペー 川大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 一大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 一大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 一大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 一大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 日大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 日大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 日大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 日大仙台放送局、毎日新聞仙台支局、N 日大仙台放送局、日 日大仙台放送局、日 日大仙台放送。宮城県井 り協会。宮城

### 選 者

現代俳句協会常務理事

入選句発表 入選句選評 表彰式 「壺の碑」へ吟行(無料バス準備) プログラム

開会式

午前十時

嘱目吟

一人一句

開

催

内

容

の 嘱目吟投句料 部・応募句投句要 一人一、五〇〇円 領

当日参加

般

当季雑詠(未発表作品一組三句)

句 題 料 封)。ただし、何組でも応募できます。 組一、〇〇〇円(無記名の定額小為替等を同

投

法 応募用紙(四百字詰原稿用紙でも可)に作品三句、 住所、氏名、俳号、所属結社、電話番号を楷書で記 ※受付後の句の訂正・変更は不可。 入の上、投句料を同封して郵送してください。

投

句

方

秀逸五句、入選一〇句 選者賞、特選第一席、特選第二席、 特選第三席

賞

俳誌 俳誌「小熊座」主宰 **俳誌「駒草」主宰** 「好日」主宰 「滝」主宰

高高成西神 紗

橋田山野 健 文子睦希

ムツオ

### 小 中 学生の 部 投 旬 要 領

句 題 料 未発表作品一人三句以内

投 投

(句方

法 応募用紙(四百字詰原稿用紙でも可)に作品三句以内 上、郵送してください。 住所、氏名、学校名、 電話番号を楷書で記入の

特別奨励賞 一〇名 佳作 若干名

### 申 学 生 0 部 選 者

小

小熊高 野谷野 ムツオ Щ 里 神小 野 松 礼モン美

大会実行委員会

投句締切

小中学生 令和六年八月

※一般と小中学生との締切日が異なります。ご注意ください

### 投 句 先

**〒**九八五一○八三五

宮城県多賀城市下馬三丁目七-一-一三〇一

### 一壺の碑」全国俳句大会

小松温美方

電

話

事務局宛

〇二二一三六五一〇四九二

(当日消印有効) ※投句用紙は、一般の部・小中学生の部共通です。※切り取って宛名としてご利用ください。 令和六年九月 十六日(金) 十三日(金)